

# フォトコンテスト応募写真にみる 千葉県八千代市八千代台地域の地域資源に関する研究

○寺島翔 岡田智秀 勇崎大翔  
日本大学理工学部まちづくり工学科 岡田・落合研究室

## 研究目的

八千代市八千代台地区は、住宅団地発祥の地として知られている。それから60年余りが経過した現在、人口減少、少子高齢化に直面し、当地区は地域再生の必要性が高まっている。その実現のためには、無秩序な市街地整備を行うのではなく、住民から親しまれている地域資源を保存することが重要となる。そこで本研究では、「八千代台フォトコンテスト」の応募写真から、住民が評価する地域資源の抽出、およびその特徴を明らかにする。

## 調査方法

「八千代台地域の時代と風景を切り取ること」「地域資源発掘の継続的な意識啓発」を目的として、「八千代台フォトコンテスト」が2021年6月に開催された。

- ①応募写真全56件のうち、写真に説明文の記載がある55件を、写真の景観要素や、撮影者による説明文の特徴を把握
- ②撮影場所が判明したものの53件を対象として、撮影場所の傾向の分析を実施

以上2つから、住民に評価されている地域資源や、撮影場所の特徴を考察する。

## 結果および考察

対象写真55件を景観要素および説明文をもとに、「日常タイプ」「非日常タイプ」「街への想い・思い出タイプ」の3つに分類した。以降はこれらをもとに考察を行う。

## ■日常タイプ

16件の写真が該当し、これらの写真は日常の風景が撮影されたものである。また、当タイプでは、公園（4件）、街並み（6件）、生活動線（3件）、乗物（3件）の要素が抽出された。

## 公園（4件）

公園では、日常的に利用する公園において、緑に囲まれた空間で、「きままな時間を過ごしている様子」や、「思い思いの時を過ごし、穏やかな時間の流れ」を表す描写がみられた。

## 生活動線（3件）

生活動線では、「昔も今も変わらない大切な生活動線」や「地域の繋がりが感じられる」といった記述がみられ、日頃利用する生活動線への親しみや、その中で地域のつながりが撮影された。

表1 調査対象写真一覧【筆者作成】

分類	分類別撮影写真			
日常タイプ (16件, 29.1%)	近景	中景	遠景	
近景				公園(4件)
中景				公園(4件)
遠景				公園(4件)
非日常タイプ (21件, 38.1%)	近景	中景	遠景	
近景				公園(4件)
中景				公園(4件)
遠景				公園(4件)
街への想い・思い出タイプ (18件, 32.8%)	近景	中景	遠景	
近景				公園(4件)
中景				公園(4件)
遠景				公園(4件)

街への想い・思い出タイプ (18件, 32.8%)	近景	中景	遠景
近景			
中景			
遠景			

## 街並み（6件）

街並みでは、駅のロータリーや歩道橋、純喫茶など日頃から利用する空間において、普段何気なく目にする光景への親しみや、日常生活における地域との密着性などを評価する写真が撮影された。

## 乗り物（3件）

乗り物では、八千代台地域で日常的に見かけるものとして、自動車・バスその他、軍用機も撮影され、地域を通行する代表的な乗物としての様子を確認することができた。

## ●非日常タイプ

21件の写真が該当し、季節（11件）、気候（6件）、街並み（2件）、コロナ（2件）の要素がみられ、非日常的な八千代台地区の風景や体験を撮影した写真が確認できた。

## 季節（11件）

季節では、紫陽花や満開の桜などの季節を彩る花木や、梅雨の晴れ間や冬の朝といった季節特有の美しさを表すものが高く評価された。これは、住宅街が広がる八千代台地域において、四季の変化に応じて様々な表情を見せる地域の魅力に、地域住民が感銘を受けているためといえる。

## 気候（6件）

気候では、日常的に暮らす地域が、朝日や夕暮れ、雨上がりなどの天候的な要素により、普段と違うレトロさを感じる描写や、新たな発見ができる景色へと変化した様子がみられた。このように、日常には見ることのできる美しい景色を表現した描写が評価された。

## 街並み（2件）

街並みおよびコロナでは、高台から俯瞰した景色や、新型コロナウイルス流行に伴う人通りの減少といった環境の変化によって、日常とは異なる景色を撮影した様子や、地域への哀愁を感じさせるような描写がみられた。

## コロナ（2件）

「八千代」駅一帯、人一人いない八千代台駅は、コロナ禍ならではの風景ではないでしょうか。

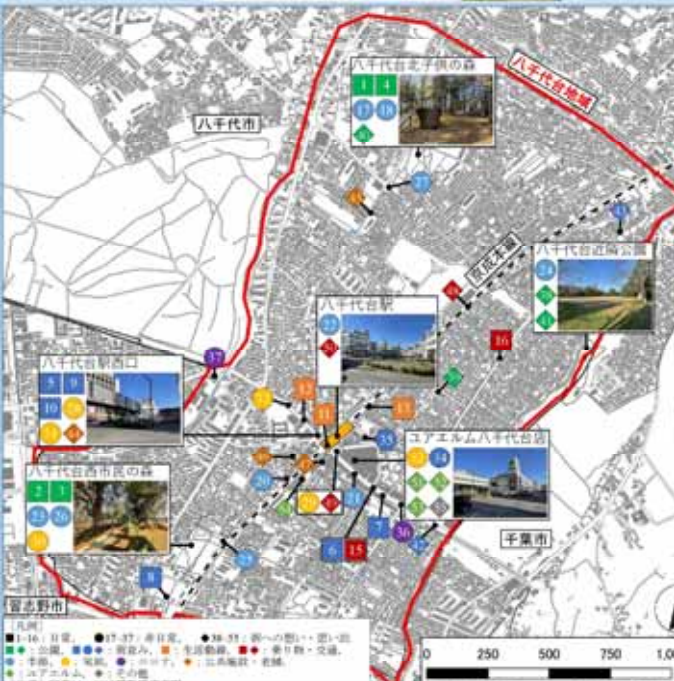


図1 「八千代台フォトコンテスト」応募写真の撮影地点視察場一覧【筆者作成】

## 街並み（2件）

街並みでは、時代や情勢に合わせて変化していく故郷の風景に、寂しさや希望など様々な感情を重ねる描写が抽出された。

## 公共施設・老舗（4件）

公共施設・老舗では、「かつてプロポーズをした歩道橋」「帰省した際に懐かしさを感じさせる菓店」など、思い出の場所が抽出され、今後も変わらず残り続けて欲しいという想いが写された。

## ユアエルム（4件）

八千代台地域を象徴するシンボルとして「ユアエルム八千代台店」が撮影され、そのシンボル性から地域住民に親しまれている様子が確認された。

## その他（1件）

「静かな夕暮れ時の八千代台」

## 撮影場所の傾向について

撮影場所として、最も多くみられたのは「公園」であり、住宅街の中で緑や季節を感じる要素が高く評価されていた。続いて、「八千代台駅」「ユアエルム」が挙げられ、これらは、八千代台地区のシンボルであることに加え、日頃から利用する施設であるがゆえに親しまれている場所であることが確認された。また、地域の骨格でもある「エポラ通り」も高く評価された。

## まとめ

本研究では、八千代台地域を対象に、住民や当該地区の利用者が評価する地域資源を抽出した結果、「日常タイプ」「非日常タイプ」「街への想い・思い出タイプ」の3つの地域資源と、それらの選定理由の特徴、撮影場所の傾向を明らかにした。

以上を踏まえて、住宅地として長い歴史を持つ八千代台地区の今後の地域再生においては、公園や季節の花といった自然要素、駅やユアエルムなどの日頃利用されることに加え、シンボル性の高い場所など、住民等が評価する地域資源を長く活用・保存することが重要であると考えられる。



図2 応募写真の撮影場所の傾向【筆者作成】